

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立

三池工業

高等学校

71

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>ものづくりを通して地域や社会の健全で持続的な発展を担う工業人材を育成する学校 ユネスコスクールに加盟する工業高校として、地域と連携した課題解決型の探究活動やものづくり教育を通して、持続的に発展する社会を形成するための豊かな心を育み、心身ともに健康でたくましい工業技術者を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<p>校訓の「個性尊重」「自覚努力」「自学自習」「創作工夫」「知恩感謝」の精神を身に付け、「ものづくり」を通して地域や社会の次世代リーダーとして活躍し、持続的な発展を担う工業人の育成</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<p>・専門知識や技能技術の習得、習熟度別、少人数、選択科目、朝課外で就職、公務員、進学など様々な進路に対応「個別最適な学び」 ・九州の工業高校では唯一ユネスコスクールに加盟し、持続可能な開発のための教育活動(ESD教育とSDGs) ・日本トップクラスの資格指導と知的財産教育</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<p>・明確な目標を持って実行できる人 ・誠実で責任感がある人 ・チャレンジ精神が旺盛な人 ・地域に貢献しようとする意欲の高い人</p>

学校運営計画(4月)

学校運営方針	学校運営計画(4月)		評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>【成果】 ・学習支援アプリを活用した自学の習慣づけと基礎学力の向上 ・専門性の高い資格取得の増加及びジュニアマイスターの実績 ・学校行事等の実施による生徒会活動の活性化 ・ものづくりを中心とした地域貢献活動の実施 ・教育相談の充実と関係機関との連携による個に応じた対応の実施 ・企業や公務員、大学等の情報収集と的確な指導による進路指導の充実</p> <p>【課題】 ・ICTの効果的な活用によるアクティブラーニングの視点に立った授業改善の推進 ・育成したい資質・能力に基づいた観点別学習評価の充実による授業における指導・評価の改善 ・特別活動とおとし、所属感・連帯感を深める生徒会活動の推進及び自己指導能力の育成 ・いじめ問題の未然防止、早期発見、早期対応のための組織的体制の構築 ・ものづくり、知的財産教育、資格取得をおとした職業教育の充実 ・生徒の特性に応じた特別支援体制の構築及び関係機関との連携 ・キャリアパスポート、進路指導ガイダンス、インターンシップ等の充実によるキャリア教育の推進</p>	<p>1 キャリア教育の充実</p>	<p>「生徒一人一人の多様な進路実現」に向けたカリキュラムの展開を行い、就職だけでなく公務員や大学進学等への進路指導体制の充実を図る。多様な生徒の可能性を伸ばす指導を充実させることで、生徒一人一人の多様な進路に応じた教育を行う。また、大学等との接続についても対応を行う。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>
	<p>2 ものづくりや知財教育を中心とした「三エブランド化」の推進</p>	<p>課題研究や実習を中心とした「ものづくり」や知財教育を通じた地域貢献を推進するとともに、「三エならではの」活動を行う。地域や社会の健全で持続的な発展を担う人材を育成するため、SDGsの推進やワンヘルス教育、防災・減災教育及びボランティア活動、ユネスコスクール活動等を充実させる。</p>	
	<p>3 授業規律の確立と授業技術を高め、「人を育てる授業」を展開する</p>	<p>「鍛ほめ福岡メソッド」の実践を推進し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた「アクティブラーニング」の実践を図り、探求心の向上を行う。最先端科学技術の進展・グローバル化・産業構造変化等に伴い、必要とされる専門知識・技術も変化及び高度化しているため、教師自らが自己研鑽に励み、ICTを用いた授業づくり、実践学習を通じた学習意欲の向上と維持に努める。そのためには、生徒に「自覚努力」「自学自習」の精神を活かし、専門的な技術および知識の定着を行い、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、「課題研究」等の自主的な学習活動をより一層充実させる。</p>	
	<p>4 ICTを活用した新たな学習スタイルの確立を図る</p>	<p>生徒1人1台端末による学習支援アプリの利用及び通信ネットワーク等のICT環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。教師のコーチングスキルを高め、生徒一人一人の資質・能力を一層確実に育成する教育活動及び教育DXの実現を目指す。</p>	
	<p>5 修学支援・特別支援を迅速に進める</p>	<p>「チーム三工」として、遅刻や欠席を繰り返す生徒の適切な指導法を協議するとともに、関係機関と連携し生徒情報を職員会議で適宜報告し組織的対応につなげる。また、担任及びクラス所属職員で学期初めの二者面談や学期終わりの三者面談をおして生徒理解に努め、生徒の心の変化を見逃さない。なお、「知恩感謝」の念を持ち、いじめや暴力のない安心安全な学校づくりに努める。</p>	
	<p>6 組織的な道徳教育の展開</p>	<p>道徳実践力を高めるため、人としての在り方・生き方を身につける道徳教育を展開する。「凡事徹底」を図り、当たり前のことを当たり前にするのではなく、当たり前のことを人には真似できないほど一生懸命やる態度を涵養する。</p>	

自己評価						学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
教務部	学習意欲を向上させ、主体的に学びに向かう態度の育成	学習方法を記載した通信を学期に1回発行し、生徒の学習意欲の向上に繋げる。	週末課題取組み状況 1学期:53.7% 夏休み63.9% 2学期73.7% 年間 60.3%	B	B	生徒の学習意欲向上に向け、本年度新たに週末課題に取組んだ。毎週の実施状況について、職員に周知することで、2学期の週末課題の取組み状況が1学期に比べ20%上昇し、生徒及び職員の意識の変化に繋げることができた。 課題として、授業アンケート結果から生徒個々の学力向上のための分析や学習改善に向けた情報通信の発行などが行っていない。教務部内での連携を図り、再度計画的な取組みに繋げていきたい。	A	授業アンケート等から、タブレット端末を活用した授業展開の取組ができており、先生方の授業改善に向けた意識が感じられる。また、学習アプリによる週末課題の実施において基礎学力診断テストで1ランクアップするなど基礎学力の定着や向上に成果も出ている。今後も、学習指導要領に沿った魅力ある授業の展開に心がけるとともに学習習慣を身に付ける取組をしていきたい。 「朝の読書」活動や「図書館便利」など本に親しみ工夫や取組がなされている。今後も読書活動に努め知的好奇心の育成に繋げてほしい。 タブレット端末の取扱等の指導を行い適切な使用に心がけてほしい。成績処理等については、校務支援システムでデータ処理や管理をスムーズに実施することで功率的な業務の実施に繋がることができればと思う。	
		朝の読書に継続して取り組ませ、読書に親しみ雰囲気醸成することで知的好奇心を育てる。	生活アンケート 朝の読書に真剣に取り組んだか において86.4%がそう思う、ややそう思うと回答 朝の読書以外の本を読む機会が増えたかにおいて45.5%がそう思う、ややそう思うと回答	A					B
		朝の読書に継続して取り組ませ、読書に親しみ雰囲気醸成することで知的好奇心を育てる。 社会の出来事などに対応した図書の展示などレイアウトやイベントの工夫を行い、生徒の利用を促進する。 次年度の筑後地区事務局運営に向け、図書委員へ各種研修会の参加を促し、実践力を養わせる。	生活アンケート 朝の読書に真剣に取り組んだか において86.4%がそう思う、ややそう思うと回答 朝の読書以外の本を読む機会が増えたかにおいて45.5%がそう思う、ややそう思うと回答	A					A
	ICTを用いた授業改善・校務の情報化推進のための環境整備	1人1台端末に関する運用方針・規約を適宜更新し、生徒・教職員への周知を徹底する。	生活アンケート	B	B	ICTを授業で活用するための研修を学期に1回実施することができた。生活アンケートのChromebookを用いた授業の実施については、92.6%の生徒がそう思う、ややそう思うと回答し、授業におけるICTの活用は進んでいる。 課題として、自身の考査成績に満足しているかの間では、50%がそう思わない、あまりそう思わないと回答し、主体的に学びに向かう姿勢に繋げるためのICTの効果的な活用法について検討する必要がある。			
		1人1台端末や学習アプリ(Google for Education, Classi)等の研修を学期に1回行い授業改善を図る。	生活アンケート Chromebookを用いた授業の実施において、92.6%がそう思う、ややそう思うと回答	A					B
		校務用PCやタブレット端末、校内ネットワークなどの保守・管理を適切に行う。		B					B
生徒育成部	安心安全な学校づくり及び自己指導能力の育成	いじめ問題について、全職員共通理解のもと未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取り組む。	各行事に積極的に参加できたか 1学期:思いう75.9%、やや思いう19.1% 2学期:思いう71.8%、やや思いう22.7% 適切な行動がとれたか 1学期:思いう69.4%、やや思いう28.0% 2学期:思いう64.3%、やや思いう31.5%	A	A	本年度は、2学期の学校生活にやや安易な行動が見受けられた。担任を始め職員全体で、あらゆる機会を通して生徒の規範意識の醸成を図る必要がある。また、自転車通学者に対する指導は、警察と連携して行っていた。いじめ事案の認知件数が増加したが、これは小さいいじめも見逃さず早期発見・早期対応に組織的に努めた結果であると考える。しかし、今後は学校全体で、いじめが起こりにくい環境や風土作りを取組み、未然防止に努める必要がある。	A	生徒や保護者等の価値観などの多様化が進んでいるが、規範意識を身に付けさせる教育を徹底することは重要である。いじめ問題については、見逃さずしっかりと対応していただきたい。特に、いじめ防止については、早期発見・早期対応が求められるので、生徒一人ひとりに向き合い適切な対応ができるように専門家等と連携しサポートを今後とも行ってほしい。また、授業相談の充実を図り、生徒一人ひとりに目の行き届いた指導をお願いしたい。 交通指導については、警察等の関係機関と連携し、交通マナーやルールなど交通安全教育の徹底を図っていただきたい。	
		生徒会を中心に、実施形態を工夫し、所属感・連帯感を深める学校行事を実施する。		A					A
		全職員による教育相談を年3回実施し、生徒理解を深める。		A					A
	健康な心身の育成及び自己管理ができる生徒の育成	薬物乱用防止講演会・いのちの講演会などの各種講演会を実施し、正しい知識と強い意志、いのちの大切さや他人を尊重する考えを身につけさせる。	教育相談を通して学校生活の悩みを先生に相談できたか 1学期:思いう51.7%、やや思いう35.9% 2学期:思いう49.1%、やや思いう39.2%	A	A				
		保健だよりをできるだけ発刊し、感染予防の啓発や季節に応じた注意喚起ができるようにする。		A	A				
				A	A				
進路指導部	個々の適性に応じた進路希望の実現	進路指導部で得た情報を担任や科主任等と共有し連携することで、生徒の進路希望についてきめ細かな助言を行う。	・受験結果より:就職(学校紹介)は希望者内定率100%を達成する一方で一次合格率は92%となり昨年度より2ポイント減。また、企業内学園生に13名合格、昨年度より4名増(トヨタ学園合格者数5名は全国トップ)。進学は17名(大学11名、専門学校6名)合格(内2名は授業料免除等レベル)し進学不合格1名。公務員は延べ6名実数3名合格と半減。 ・生活アンケートより:「効果的な進路指導を受けた」思う・やや思う93%、「効果的な進路情報を受けた」思う・やや思う93% ・受験後アンケートより:購入テキストは「役立った」53%と半分程度。	A	A	進路指導に当たり、進路指導部および担任を中心に学校全体で取組み、大きな成果が出た。一方で、不合格の要因考察として、就職では面接時に適切に回答できなかったり筆記でのSPI対策不足。進学では学力不足などの課題があった。 次年度の主な課題は、就職では、学園生や技術職のさらなる増大(製造現場の人口ポット化に対応するため)、進学では、難関大学等の取組と合格、公務員:希望者全員の合格と増大である。これらを目指すために、面接対策は会話形式での仕上げを、学科等と連携しながらさらに推進する。筆記試験のSPI主流化対策として、就職模試はSPI試験を増やし、購入テキストもSPIに特化する。学力向上のために学習アプリと基礎学力テストをさらに活用し個々の進路目標に向けた自学を教務部と連携しながら図っていく。進学・公務員課外は希望人数減でも成果が出るよう対策する。	A	就職内定率や進学の実績から学校全体での指導やサポート体制がしっかりとできている。特に、企業内学園生の内定者が大幅に増加したことは、昨年度からの補習の時期や内容など体制づくりを認めた取組の成果である。今後も、取組の継続を図るとともに更なる工夫を行い進路指導の充実を図ってほしい。 キャリア教育については、1・2年生を中心に外部講師による講演会など、生徒が早期に自分の進路についての意識付けができるよう工夫対応してある。今後も進路ガイダンスの取組みを続けるとともに情報の収集と提供の充実をお願いしたい。 インターンシップにおいて、保護者や関係機関の協力を得て実施できたことはよかった。社会を知ることで仕事の意義や大切さを知るよい機会であるので、進路の意識付けに繋げるようにしてほしい。また、学習アプリを活用し生徒自身の進路に沿った学力の向上を図り進路実現に繋げてほしい。	
		模試や学習アプリを活用し、生徒を定期的、効果的に励ます場面を設定する。また、面接練習に取り組みませ会話でのやりとりに対応できるようにする。就職試験一次募集での合格率94%(昨年度)以上を目指す。		A					A
		就職問題集やSPI参考書を活用し勉強方法を助言し自学の習慣をつけさせる。また、進学・公務員課外は志望校の過去問レベルまで発展させる。		B					A
	キャリア発達の促進および社会人で活躍する指導	キャリアパスポートを学校行事でも定期的に振り返らせ、社会に貢献しようとする人材に育てる。	・2年生インターンシップ後アンケートより:「成長できた」73%、「働く大切さわかった」91%。	B	A	キャリア教育において、キャリアパスポートはボランティア活動シートを追加し、より人間的成長を多面的に評価するものとし、学期や行事ごとに振り返らせたが、学期ごとのHR時間の確保が困難であった。2年生インターンシップでは事前調べ・振り返りシート追加も善し、成長している様子がうかがえた。進路ガイダンスを企業ブース化、PTAコメントを進路だより化するなど生徒が主体的に活動できるように手立てを行った。 次年度の主な課題は、キャリアパスポートの振り返り時間確保や、インターンシップ・進路ガイダンスをさらに充実・発展させた内容にしていこうである。2・1年生のキャリア発達(自己実現)への意識向上も学年団と連携しながら共通理解のもとに進めていく。			
		インターンシップや工場見学等の運営を工夫することにより、職業理解や自己理解を深めさせ、就職・進学・公務員など多様な進路希望の実現と実現後の社会生活をイメージさせる。	・生活アンケートより:「進路実現への自主行動した」思う・やや思う85%(思いう3年69%/全学年43%)	A					A
		生徒が主体的に進路調べ活動をするホームルームの時間(進路ガイダンス等)を設定する。		A					A

様式3

企画部	魅力ある学校行事の実施	PTA活動を通して、保護者と学校との連携を深め、効果的な教育活動に繋げる。	地区懇談会後のアンケートでは、回答者のうち89%が実施についてよかったと答えた。	A	A	A	PTA活動においては、地区懇談会やマラソン大会後の三工鍋の提供、三工祭での出店などを行った。多くの保護者に参加して頂き連携を深めることができた。さらに、連携を深めるためには実施形態の検討が課題である。体験入学において、満足度は高中学生や保護者へのPRができた。しかし、中学生の参加人数は328名、昨年(352名)に比べ参加人数が減少しており、今後も学校PRを含め本校の魅力を発信することが課題である。	A	PTAの参加・協力のもとマラソン大会や文化祭等の学校行事が実施できたことは連携を深めることにつながっていると思う。 学校行事など学校活動等分りやすくなり外部に発信されているが、生徒募集につながるような広報の工夫をお願いしたい。 校内研修において、教務部と連携LICTを活用した授業改善に関する研修は充実しているようである。生徒指導など他の分野においても外部から専門家を招くなどして先方からの研修の充実をさらに進め指導力の向上に努めていきたい。
		本校の魅力を伝えられるような体験入学を企画し、受検生増加に繋げる。	体験入学アンケートでは、参加した中学生・保護者の97%が参加した目的を達成し、進路選択の参考になったと回答。	B					
		他分野との連携を強化し、業務の最適化を図る。		A					
	校内研修による職員の資質と能力の向上	教職員として必要な資質と能力の向上を図るための研修会を実施する。	資質と能力の向上を図るための研修会では、理解できている97.9%、やや理解できている2.1%。ICT機器の活用に関する授業アンケートでは、よく活用する38.0%、たまに活用する35.0%、授業でのICT機器活用の状況については良い71.8%。	A	B	B	教職員の資質と能力の向上を図る研修会を実施することができた。ICT機器の活用については、教員の活用頻度が上がりICT活用状況が良いとの生徒評価を得ている。研究授業では、全職員が参加している。課題としては、グループワークによるフィジカル、カークトについては、あまり理解できていない課題があるため、より効果的にICTを活用するための研修を設定する必要がある。		
1学年	基本的な生活習慣の確立	欠席・遅刻指導を徹底し、皆勤率75%を目指す。	皆勤率については1学期69%、2学期49%と減少傾向にある。	B	B	B	皆勤率が低かった。コロナ禍で過ごしてきた生徒たちなので、遅刻や欠席に対する意識が薄い生徒がいるように感じる。そのため時間厳守など基本的な部分を当たり前にできる指導をしなくてはいけない。 また、ルールや規則を守らない生徒や規範意識が低い生徒に対しては、心の育成に力を入れていきたい。何となく悪いのかを一つ一つ丁寧に指導をしていく。また、生徒と教師の感じ方に大きく隔りがあるので、情報共有を行い生徒理解に努める必要がある。	A	入学後、学校生活に慣れるように細かい指導や支援が必要に感じている。また、事柄の一つ一つに意識を待たせる指導は大変良いことである。今後も職員間の連携を図り、基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ有意義な高校生活を生徒たちが送ることができるように指導をお願いしたい。
		授業や学校行事等を通して、協力する・ルールを守る・他者を思いやる生徒の育成を目指す。	挨拶や時間厳守など場面に応じた適切な行動を96%ができていると回答している。	B					
	基礎学力の育成	3S(早く・止まる・笑顔)を意識した挨拶や時間の厳守など徹底した生徒指導を行い、規範意識を高める。		B	B	B	授業規律の確立がなされていない場面があり、。授業に対する生徒の意識が低いと感じることがあった。 また、提出物の遅れや未提出もあったことからクラス担当と保護者との連携も課題とする。 学年全体でも学力に不安を感じる生徒が多く、個々の能力をあげる必要もある。しかし、底上げを中心にやるとともに、できていない生徒を伸ばしていくことで学年全体の向上につなげていきたい。	A	道路指導部と連携しキャリア教育を積極的に取り組んでいることが分かる。 学習活動だけでなく、目的意識を明確に持つことで、一つ一つの課題を一生懸命に取り組んでいくことで更なる成長を期待したい。
		授業規律の確立を図るとともに、教科担任・各分掌・保護者との連携を図り、課題に対し早期に対応する。	授業における目標を設定し主体的に参加では92%ができている、ややできていると回答している。	B					
2学年	自己理解・自己管理能力を高め、人間関係形成・社会形成能力を身に付ける。	学年集会・行事等を通して、学校生活の中核を担う学年としての誇りと自覚をもたせ規範意識を高めさせる。	・挨拶や時間厳守など場面に応じた適切な行動がとれている90%以上。 ・基本的な生活習慣を心がけ、休まずに学校に登校できた81.8%。	B	B	B	様々な行事に積極的にリーダーの役割に立候補してくれたことは良かったが、リーダーになっただけではリーダー性は育たないのと、今後も継続して学年集会、HRなどを通して自覚と責任感を育成していかなければならない。	A	インターンシップや修学旅行をとおして、生徒たちにとって働くことの意義や社会性を身に付ける体験ができたことは良かったと思う。特に、修学旅行は、生徒たちが楽しみにしていた学校行事の一つでもあり、クラスメイトとの友情を深めるとともに集団行動などの大切さを身に付けさせる等教育効果が高いものと考えられる。 次年度は、進路決定の学年となるため進路実現に向けた取り組みに加え、最上級生として、部活動や学校行事などでリーダーシップを発揮できるように指導と支援をお願いしたい。
		部活動をはじめとして規模の大小を問わず、リーダー経験を持つことを学年の最大目標と設定し、意識させる。		B					
		遅刻・欠席指導を徹底し、皆勤率70%を目指す。		B					
	キャリアプランニング能力を身に付け、基礎学力の底上げを図る。	面談等を通して、毎回の定期考査と模試での目標設定と振り返りによる課題確認を行い、自己ベストを更新していくサイクルの確立。 上級学校や就職について具体的に調べるための進路学習の時間を確保し卒業後の具体的な進路目標を設定できるようにする。 希望進路の実現に向け、自主的な行動をした31%。	・予習や復習など家庭学習を行っている31%。 ・就職や進学に向けた効果的な指導を受けることができた90%以上。 ・希望進路の実現に向け、自主的な行動をした31%。	B	B	B	アンケート結果の値が本当の実力や実践力につながっていないのが現状である。目標設定が低く、努力しなくてもできる範囲を目標ラインにしているところがある。何事にも挑む志と計画性をもって、先を見通して行動できる力を身につかせ、進路実現につながるように生徒一人一人の個性を伸ばしていきたい。		
3学年	主体的な学習習慣と基本的な生活習慣の確立、また確かな進路実現及び勤労観・職業観の育成	学習環境の整備と授業規律を徹底し、学習習慣・方法を定着させ、意欲的に学ぶ姿勢を身につける。(予習→授業→復習の学習スタイル、家庭学習の習慣化)成績改善を要する者0名を目指す。	・自学や自宅学習に、取り組む時間や課題に向き合うことができたという意見が76.4%である。 ・進路の取り組みは、生徒・保護者ともにどの項目も90%以上の高い満足度である。 ・学校生活を休まずを送れているが76.7%である。	B	B	B	職員間や家庭との生徒情報の共有と協同的な支援を継続することにより、高校生として正しい行動が取れるようになった。しかし、一部の生徒において、学習習慣の徹底、体調管理、時間管理ができていない。特に、進路実現後、増加傾向になるため改善することが今後の課題である。 生徒の進路実現に向けて、より高い目標を定め、最後まで努力を継続できるように、教員の組織化を強化し、迅速かつ正確な計画・実行を行い、教員の指導力の向上を図る。	A	学校行事については、生徒たちが企画し体育祭、文化祭など実施するなど、新しいものを創り上げたことは大変素晴らしい。最上級生としての自覚を持ちリーダーシップをより発揮したいと思う。 道路指導についても、生徒・保護者に対して適切な情報を提供し、道路指導部と協力して的確な道路指導ができていると考える。 今後もこの成果を蓄積し、次年度に引き継いで指導体制を確立していただきたい。
		広い視野と高い志を持ち、その実現に向かって意欲的に努力する態度を身に付けさせ、規範意識やマナーの向上を通して、将来の職業人として高い意識を持った生徒を育成する。		B					
	「個を高めあえる集団」「集団を高められる個」の育成を図る	豊かな人間関係の形成を通し、リーダーシップとフォロワーシップの相互関係により、互いに成長できる生徒の育成を目指す。	・豊かな人間関係では、82.4%が充実していると答えている。 ・自分の役割を意識し、学校等に貢献できる活動は93.4%と高い。 ・学校行事等に関しては、積極的に楽しめたという意見が67.6%であった。	A	B	A	生徒の自主的な活動やリーダーの育成を通して、学校の活性化に取り組めた。次年度は、組織的な支援体制を整備し、学校全体で課題を共有、生徒同士が共に学び合う関係性を展開し、お互いを認め合い多様な大事にする協同的な活動を取り入れる。 自らが未来の担い手として、社会で活躍できる力の育成を軸に、学んだことを身近な生活に関連付けし、キャリア教育、防災・減災教育等で地域社会と結びついで展開する方策を考え、生徒が主体的に活躍できる機会を充実させる。	A	高校生のものづくりコンテスト九州大会3位、ロボット競技全国大会出場をはじめ、第一種電気工事士の合格者の増加など素晴らしい結果が出ている。今後は、学習習慣の定着と電気主任技術者第三種などハイレベルな国家資格の合格者を出せるように指導体制を作りたい。 大牟田市動物園への給餌器の製作など、専門性を活かした地域貢献を行っている。創造的なものづくりで教育効果も取りたいと思うので、今後も継続した取り組みをお願いしたい。
		学校行事や部活動を通して、粘り強く強い体力と精神力、周囲と協働する意識の向上、社会貢献・環境に対する意識を高めるため、学習成果の提供やボランティア活動を積極的に行い、地域社会との連携を深める。		A					
電気科	基礎学力の向上と応用力の発展	生徒に授業をしっかり受ける準備と姿勢を身につけさせる。	・授業態度は、90%以上の生徒が授業態度が身につけている。 ・皆勤率は31%と下回ってしまっている。	A	B	B	多くの生徒は、授業に向かう態度も良好であるため、これを継続できるように魅力ある授業展開を心掛けていく。 皆勤率は全学年で達成できていない状況がある。社会人になるという意識を生徒に醸成させるためにも、学科全体で課題意識を持って取り組む必要がある。 33%の生徒が家庭学習の習慣が身に付いていないため、引き続き課題等家庭学習の取り組み状況を把握し、改善していくように指導の徹底を図る。	A	高校生のものづくりコンテスト九州大会3位、ロボット競技全国大会出場をはじめ、第一種電気工事士の合格者の増加など素晴らしい結果が出ている。今後は、学習習慣の定着と電気主任技術者第三種などハイレベルな国家資格の合格者を出せるように指導体制を作りたい。 大牟田市動物園への給餌器の製作など、専門性を活かした地域貢献を行っている。創造的なものづくりで教育効果も取りたいと思うので、今後も継続した取り組みをお願いしたい。
		実習などの集合時間(5分前行動)を厳守させる。遅刻・欠席をなくす。(皆勤率70%以上を目指す)	・家庭学習を行っている生徒が67%となっている。	B					
	電気技術者の育成を目指す指導	第二種電気工事士の合格率を90%以上、第一種電気工事士を10名以上合格させる。	・第二種電気工事士の合格率が90%以上、第一種電気工事士の合格者数も10名以上となった。 ・ものづくりコンテスト県大会は優勝、九州大会は3位となった。 ・第一希望に叶わなかった生徒が若干名いた。	A	A	A	第二種電気工事士と第一種電気工事士は目標を達成することができた。 ものづくりコンテストについては、これまでの指導の積み上げと生徒の頑張りで、学科の先方からの指導と支援があり達成することができた。また、技術アイデアコンテストでは、全国最多となる4名の生徒が入選し目標を達成することができた。 就職試験は第一希望に合格できるよう、体系的な就職支援体制を確立できるように次年度は取り組んでいく。		
		ものづくりコンテスト電気工事部門や、技術アイデアコンテストにおいて上位入賞を目指す。		A	A	B			

様式3

電子機械科	高度な知識・技能と問題解決能力の育成	ICT機器の活用を積極的に行い、聴いて・視て・対話して学ぶことで、学習意欲の向上を図る。	・ICT機器を活用し、90%以上の生徒が興味・関心を持つ ・技能検定3級熟処理35名・3級機械検査33名合格 ・ジュニアマイスター認定30名以上を目指す。	A	A	教材としてICT機器を用いることで、興味・関心を持つ生徒は増加した。座学においてICT機器を用いることで、実習と関連付けをし、生徒自身がよりイメージしやすくなったため、専門性の深化と技能の習得を図ることができた。そのため、日頃の授業だけでなく、資格試験へも積極的に取り組む、ジュニアマイスター認定を受ける生徒がさらに多くなった。 次年度も、ICT機器を活用し、教科指導力の向上を図っていく。	A	資格取得を積極的に行い、生徒の学習意欲の向上及び専門的知識や技術の習得に繋げている。特に、機械検査や旋盤技能士等の国家資格に挑戦し実績を上げている。 昨年度に続き今年度も高校生生のつりコンテスト県大会で2位の成績を収めたことは大変素晴らしいことである。次年度は、優勝を目指しほしい。また、実習等における安全教育の充実を図るとともに、旋盤競技や溶接競技などのつり組に関する技術向上についても引き続き指導をお願いしたい。
		座学と実習を関連付け、専門性の高い知識と技術の深化・統合化を図る。	・97%以上の生徒が実習における安全教育を実感 ・50%程度の皆勤率と下回る ・88%の生徒が悩みを相談することができている	B				
	安全教育を通した規範意識の育成	資格・検定試験へ生徒自らが主体的にチャレンジし、ジュニアマイスター認定30名以上を目指す。	・97%以上の生徒が実習における安全教育を実感 ・50%程度の皆勤率と下回る ・88%の生徒が悩みを相談することができている	A				
		実習等のあらゆる機会において、安全教育における6S(整理・整頓・清掃・清潔・作法・安全)の徹底を図る。	・97%以上の生徒が実習における安全教育を実感 ・50%程度の皆勤率と下回る ・88%の生徒が悩みを相談することができている	B				
情報電子科	基礎学力の向上と進路実現	基礎学力向上のため、日々の指導の中で、生徒個々に合った学習法を検討し提示する。	・94.9%の生徒がICTを活用し、積極的に授業を臨み、個々に適切な授業を受けている。	A	A	ICT活用や資格取得、進路実現においては、日頃の指導を通し、計画の重要性を意識させ、目標に向かって努力させることができた。次年度では、ICT等を活用した家庭学習が出来ていない生徒が30.4%なので家庭学習の意義を伝え、改善させる。進路実現や資格取得に向けては、教員間の情報共有を綿密にし、生徒個々に合わせた指導に当たり、生徒と共に更なる努力をしていきたい。	A	資格取得に熱心に取り組む国家資格の電子機器組立において多くの合格者を出すなど素晴らしいことであり、しっかりと指導体制ができているものと考えられる。次年度についても継続した取り組みを行い、ICTを活用した新しい補習の取り組みを実施し、さらに成果を上げていきたい。また、学料として進路指導の組織的な取り組みに努めていると思う。今後は、社会人としての意識づけと目的を明確にさせ、生徒一人ひとりの個性にあったきめ細やかな指導をお願いしたい。
		キャリア教育をとおして、明確な進路目標を持たせ、計画と取り組みを実行させる。	・進路実現に向けて、日頃の指導や資格取得の指導に満足している生徒が88.6%である。	A				
	企業が求める人材の育成	資格取得をとおして目標設定をするとともに、ICT機器により効果的かつ計画的に学習する姿勢を醸成する。	・進路実現に向けて、準備段階から試験まで一貫した指導に満足している生徒が78.1%である。 ・実習等の安全対策をしっかりと行っていると感じている生徒が77.2%である。	B				
		企業情報収集能力の育成を行い、企業が求める人材をよく理解させ、第一希望進路100%を目指す。	・進路実現に向けて、準備段階から試験まで一貫した指導に満足している生徒が78.1%である。 ・実習等の安全対策をしっかりと行っていると感じている生徒が77.2%である。	A				
土木科	自己指導能力の育成に向けた指導	相手の気持ちを考え、行動や言動に気を配り、思いやりのある人材を育成する。	・周りと協力しながら明るく楽しい学校生活を送れている。:88%	A	A	明るく楽しい学校生活を送れているが、学校行事や学習活動の中で言葉使いや行動が他人を傷つ問題となることを自覚し、人権感覚を高める指導をしていく必要がある。貴重品の管理や施錠の徹底は、常に声を掛け合い盗難や紛失がない環境づくりを行っている。体調管理や感染症対策の指導を行ってきたが、欠席者が増加している。キャリア教育を踏まえ基本的な生活習慣の確立に向けた指導の徹底を図る。	A	今年度も土木技術職の公務員の合格者を出したことは、補習等も含め指導体制が確立しているからであると思う。測量士補や2級土木施工管理補等の国家資格では、過去最高の合格者を出すなど指導の充実が結果として現れている。今後は、指導方法の更なる研究をしていただき、全員合格を目指す頑張りをほしい。基本的な生活習慣及び規範意識を身に付けさせることは、非常に大切なことである。学内で指導の在り方について検討し、指導体制づくりに努めていただきたい。
		教室やロッカーの整理、貴重品の管理を徹底し、環境整備ができる態度を育成する。	・挨拶や時間厳守など場面に応じた行動がとれている。:94%	A				
		生活習慣を整え、自己管理能力を高め、皆勤者80%を目指す。	・基本的な生活習慣を心がけ、休まずに学校へ登校できている。:72%	B				
	土木技術者の育成を目指したキャリア教育の充実	各種資格試験の指導を科全体で効果的に指導し、技術者としての誇りと進路実現100%を目指す。	・積極的に検定・資格試験に取り組んでいる。:86%	A				
高度熟練者による職場体験活動により最新技術に触れ進路目標の明確化を推進する。		・就職や進学に向けた効果的な指導を受けていますか。:そう思うやや思う97%	A					
授業や実習において危険予知を徹底し、怪我や事故がない安全教育を徹底する。		・実習など安全対策をしっかりと行っている。:97%	A					
工業化学科	確かな学力の育成と進路実現に向けたキャリア教育の充実	個に応じたサポートを充実させ、学習意欲の向上と家庭学習の習慣化を目指す。	・週末課題取り組み状況 平均78% ・classiの自学機能利用者1名 ・国家資格取得率56%(甲種1名) ・進路希望 実現100% ・インターンシップ(好評価73%)や高度熟練者による実習指導後の意欲向上、課題発見ができた。	A	A	classiの自学機能を利用している生徒は1名であるが、週末課題を取り組んでいる生徒は多数いる。家庭学習の習慣から主体的に学習する習慣へ意識の変化ができていない。classiを利用した課題を実施し、classiを利用した学習方法を構築する。国家資格の取得率が低いため、近年の出題傾向や苦手分析を行い、合格者数の増加ができる指導方法を学科で共有する。効果的なキャリア教育を行うことにより、基本的な技術の習得だけでなく、課題発見能力と解決する力を身に付けさせる。	A	甲種危険物取扱者名合格など、工業化学科の専門性を活かした資格取得を学習意欲の向上に繋げようとしている。また、企業と連携した高度熟練者による指導等で専門知識の習得を図るなど工夫した取組みがなされている。フアンヘルス教育などイベントに参加し地域に対し積極的に科の魅力ある教育内容のPR活動を行っている。 出席率については、卒業後においても社会人として重要なことである。今後も保護者と連携を図り基本的な生活習慣の確立を目指し更なる指導をお願いしたい。
		国家資格を取得させることで専門性の向上と進路実現100%を目指す。	・皆勤率37% ・面談時の保護者アンケートより、91%が挨拶や感謝の言葉を伝える。 ・地域イベントや地域貢献活動 参加率74%	B				
	自立できる生徒の育成	基本的な生活習慣を確実に身に付けさせ、遅刻・欠席を減らし皆勤率80%以上を目指す。	・皆勤率37% ・面談時の保護者アンケートより、91%が挨拶や感謝の言葉を伝える。 ・地域イベントや地域貢献活動 参加率74%	C				
		身だしなみや挨拶を励行し、感謝の気持ちを行動で表すことができる態度を育成する。	・皆勤率37% ・面談時の保護者アンケートより、91%が挨拶や感謝の言葉を伝える。 ・地域イベントや地域貢献活動 参加率74%	A				
地域と協力したイベントに参加し、地域社会の発展に寄与することができる人材を育成する。	・皆勤率37% ・面談時の保護者アンケートより、91%が挨拶や感謝の言葉を伝える。 ・地域イベントや地域貢献活動 参加率74%	A						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・基礎学力及び学習意欲の向上・授業におけるICT活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の充実に向けた授業改善とともに学習アプリの活用を推進し、基礎学力の向上を図る。
・自己指導能力の育成:教育相談の充実を図り、日々の教育活動を通して、規範意識や所属感・連帯感を高め、自らを律し適切な行動できる生徒を育成する。
・キャリア教育の充実:進路ガイダンス等の充実を図り、早期に進路に対する意識付けを行うことで、学校生活に目的意識を持たせ、進路実現に向け自らの意志と責任で進路を選択し決定する力を身に付けさせる。
・主体的活動の推進:生徒会活動・部活動・ものづくり活動における指導体制の充実を図り、生徒が自ら課題を見出し、解決策を考え主体的に行動できる力を養う。
・地域貢献活動等の充実:ものづくりの専門高校としての特色を生かし、生徒が主体となり積極的に地域貢献活動に取り組めるように指導と支援を行うとともに関係機関との連携を推進する。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A:適切である
	B:概ね適切である
	C:やや適切でない
	D:不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
・生徒募集の観点から、女子生徒の入学を促すような取組みについて強化すべきである。(女子トイレ等の環境整備を含め)	